

雪害対策特報

昨年は暖冬傾向で推移しましたが、今後の突発的な豪雪等で施設や果樹棚の倒壊、果樹類の枝折れ等の被害の発生が心配されます。つきましては、下記を参考に対策を実施してください。

1. 施設栽培

- 降雪により施設が潰れないように中柱や筋交いの設置をして施設の補強に努める。(できるだけ細かく設置する)
- かけたままのビニールやネットは降雪前にしっかり片づける。
- 被覆資材を除去したハウスでは、ジョイント部分等（接合部）に積もった雪が屋根一面に積雪することがあるため、積雪が多くなった場合は除雪をする。
- ハウス周辺の除雪や消雪剤散布を行い、ハウス上部の落雪を促進させる。
- 加温栽培の場合は融雪に努め、燃料切れがないように注意する。あわせて給油口付近の除雪を行う。
- 地上配管の接合部が雪の重みで外れ、重油がもれる心配があるので、除雪を行い、バルブをしっかりと閉める。
- 加温設備があるハウスは加温機をフル稼働し谷間の融雪を行う。ビニール等内張りカーテンがある場合は、カーテンを 20 cm程開けてハウス全体の温度を上げるよう努める。
- 無加温ハウスは、ハウス間の通路の除雪や雪の溜まる部分の常時雪下ろしを行う。併せて、中柱で補強も行ってください。

2. 露地栽培共通

- 枝折れや棚の倒壊がないように早めの剪定を心掛ける。
- りんごわい化樹の下枝は、融雪剤散布やスコップによる掘り割り等を行い被害を防止する。
- 棚栽培は支柱の本数を増やし、倒壊防止に努める。(必要であれば樹の幹にも支柱を行う)
- 果樹の立木や棚に積もった雪は、早急に落とす。尚、果樹棚の雪の落とし方は、園の中央から外側に向かって、徐々に円を広げるように行い、斜形地の場合は下方から雪を落とす。
- 棚が倒壊した場合は、樹体被害を最小限にするために早めに支柱で棚を起こす。また、すぐに棚が起こせない場合は、主幹・主枝などの分岐点に損傷が発生しないように重要な枝だけでも支柱で起こす。
- 太枝が完全に裂けた場合は、切断面を滑らかに切除し癒合剤を塗布して乾燥や枯れ込みを防止する。
- 雪の表面に融雪剤、黒土、焼モミガラ、木灰など有色のものをまく。また、雪面に凹凸のうねをつけ大気と接触する表面積を大きくして融雪を促進する。
- 融雪水が多くなるので、排水溝や明きょを掘り圃場外へ排水を促す。

3. 凍害対策・野ネズミ対策

- 防寒（樹幹部のワラ巻き・白塗剤の塗布等）を徹底する。
 - ① 白塗剤：主幹部(80cm 位まで)へフジホワイト等を塗布する。
 - ② わら巻き：地際部から地上 80 cm程度までの樹幹部に厚さ 5 cm以上で巻く。
- ももの若木（7年生程度まで）・りんご若木など、凍害・樹体枯死・樹勢衰弱が心配される場合は、厳寒期（特に1月）の剪定は行わない。
- 本年初結実した樹や着果過多樹（弱樹勢）等は凍害を受けやすくなります。上記の予防対策は万全にしてください
- 野ネズミ対策①：根元のマルチ・草はきれいに取り除く。また、園の周囲もきれいに除草する。
- 野ネズミ対策②：密度を減らす(捕殺)：一斉防除は必ず実施してください。
パチンコでの捕獲：りんごのエサ等でネズミの活動穴へ夕方仕掛けて4～5日続けると効果があがる。
毒エサによる毒殺：所定量を穴に投与したり、ネズミが集まりやすいように剪定した枝を束ね、ワラ等で覆った中に毒エサを入れておく(10アール 4～5ヶ所)。穴へ毒エサを入れる場合は、奥の方へ棒で押し込み穴をこわさないようにしておく。
- 野ネズミ対策③：古タイヤを半分位土に埋めて中に毒餌を入れておく(餌は何回も追加する。) 15～20mに1本位設置が目安。